



# 滋賀短期大学 学報

2015. 12. 1

No. 78

〒520-0803 大津市竜が丘24-4 滋賀短期大学 広報・図書委員会 電話(077)524-3605

ホームページアドレス <http://www.sumire.ac.jp/tandai/>



## 短期大学をめぐる新たな動向

### －実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関について－

滋賀短期大学学長 佐藤 尚武



短期大学をめぐる新たな動向として、教育再生実行会議の提言による「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」をとりあげます。ご存じのように、教育再生実行会議は平成25年1月に首相の私的諮問機関として官邸に設置された会議体です。21世紀の日本のふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を実

行に移していくために、内閣の最重要課題の一つとして教育改革を推進する必要があるという趣旨のもとにあります。これまでに、いじめの問題等への対応について（第一次提言）、教育委員会制度等の在り方について（第二次提言）などの提言のもとに、教育改革が進められてきています。

ところで、教育再生実行会議の第五次提言は平成26年7月に行われ、それは「今後の学制等の在り方について」です。この提言の柱の一つに、「子供の発達に応じた教育の充実、様々な挑戦を可能にする制度の柔軟化など、新しい時代にふさわしい学制を構築する」とあり、その（3）に「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関を制度化する。また、高等教育機関における編入学等の柔軟化を図る」とあげられているのです。社会経済の変化に伴う人材需要に即応した質の高い職業人を育成するとともに、専門高校卒業者の進学機会や社会人の学び直しの機会の拡大に向けて、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関を制度化するという提言となっています。

この教育再生実行会議の提言を受けて、文部科学省は新たな高等教育機関の制度化に関する「有識者会議」を設置しました。この有識者会議は平成26年10月から審議を重ね、平成27年3月に審議のまとめを公表しています。そのまとめにおいて、第1に「高等教育の多様化の必要性」として、社会経済の変化に伴う人材需要に即応した、質の高い職業人養成の量的拡大が必要であるということ、高等教育体系の多様化の必要性があるということをあげています。第2に「基本的方向性」として、国際的・国内的通用性の確保の重要性や、高等教育体系の多様化の促進のため、大学・短大・質の高い専門職業人養成を行う専門学校が移行しうる仕組みとする必要性等を勘案して、新たな機関は大学体系の中に位置づけ、学位授与機関とすることを基本とするとしています。第3に「制度化に当たっての個別主要論点」として、目的、教育内容・方法、入学者受け入れと編入学、修学年限、学位、教員、施設・設備、質の保証システム（設置基準、情報公開、認証評

価、公的助成等）をあげています。また、第4に「その他の検討課題」として、名称、分野などをとりあげています。

有識者会議の審議のまとめと時期を同じくして、教育再生実行会議の第六次提言（平成27年3月）が出され、地方創生を実現する教育の在り方について、「教育がエンジンとなって地方創生を」という柱のもとに、教育の力で地域を動かすことが強調されており、「第五次提言で述べた実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化が地域の職業人教育に大きな効果をもたらすことが期待できることから、その実現に向けた取組を推進する」と記載されています。これらの教育再生実行会議の提言やその有識者会議での審議のまとめを受けて、文部科学大臣は平成27年4月に中央教育審議会に対して新たな高等教育機関について諮問を行っています。具体的には、質の高い職業人養成の行うことができる制度設計、新しい機関の学修成果に対する評価制度、高校生の進路の選択枝の拡大や社会人が学習しやすい仕組みについてです。その諮問を受けて、中央教育審議会はこの制度化に関する「特別部会」を設置し、本年の6月から特別部会で審議が重ねられている状況にあります。

加えて、平成27年6月に閣議決定された成長戦略に関わる「日本再興戦略改訂2015」においては、変革の時代に備えた人材力強化（雇用と教育の一体改革）のもとに、教育機関の取組改革として、「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」の制度化があげられており、これについては「2019年度の開学に向け、具体的な制度設計について中央教育審議会でも結論をまとめ、2018年度中に所要の制度上の措置を講ずることを目指す」と記載されています。ということは、中央教育審議会の特別部会での新たな高等教育機関の制度設計に関する審議のまとめが次年度にはなされることとなります。

このような動向をふまえると、新しい高等教育機関の設置が可能となることから、既存の大学や短期大学において、あるいは専門職業人養成を行う専門学校において、高等教育機関としての実践的な職業教育に向けての具体化の検討が始まろうとしています。短期大学としては、これまでの職業人材の育成を強化する方向性を探るのか、新たな職業教育への転換する方向性を模索するのが問われてくることになります。短期大学全体としては、18歳人口の減少、学生のニーズの変化等によって厳しい運営状況が続いていますが、専門職業人材や地域の中核的人材の育成、生涯学習拠点機能、学生に対するきめ細かい教育など、これまでに短期大学が取り組んできた特色ある教育の内容や方法の強化のもとに、今後の社会の変化を誠実に捉えながら、高等教育機関として多様な人々の修学ニーズに応えていくことが求められてきます。

## ビジネスコミュニケーション学科 平成26年度「インターンシップ」報告 同学科ホスピタリティコース 平成27年度「実技演習」の病院実習報告

10名が7か所でインターンシップをさせていただき無事終了しました。2月9日(月)から3月20日(金)までの間でそれぞれ5日間、各実習先の都合に合わせて行いました。実習先は、京都・大津・守山・長浜市内の都市型ホテル、観光誘致の公益団体、スポーツクラブでした。

また、日本医師会認定医療秘書の資格取得を目指す学生8名は、夏休み中の2日間、大津市内の3か所の病院で実習をして無事終了しました。

### 滋賀県の観光PR活動に触れて

ビジネスコミュニケーション学科 2回生 的場 向日葵



1回生の春休みに、公益社団法人びわこビジターズビューローに5日間のインターンシップに行かせていただきました。外国人からの視点で滋賀県の伝統的な文化、日本でしか体験できないことをレポートする取材に同行させていただいたり、滋賀県のPRに関する会議に参加させていただいたりしました。

関西で観光といえば京都や大阪などがメインというイメージがありますが、滋賀県も観光客に訪れてもらうために様々な工夫をしているということを知りました。他県と協力して、物産展を開いたり、アジアの国々へ滋賀県のPRをしに行ったり、私が思っているよりはるかに多くの取り組みをされていました。滋賀県にもっと多くの観光客に来てもらうためには、地域の協力が必要不可欠です。このインターンシップを体験してから、さらに地域のためになる活動をしたと思うようになりました。

### ホテルの仕事から学んだこと

ビジネスコミュニケーション学科 2回生 松田 七海



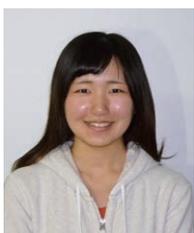
私は大津プリンスホテルに受け入れていただきました。そこではベルガールの仕事を担当し、ホテルで働いている皆さんのホスピタリティマインドを間近で学ぶことができました。

実際にホテルの仕事を体験することで、常に周囲の状況を把握し、お困りのお客様を見つけたらすぐに声をかけてご案内すること、そのお客様が何を求めているかを見極める必要があることを学びました。

5日間という短い期間でしたが、この仕事を体験できたことは私にとって本当にプラスになりました。ホスピタリティマインドは医療の現場にとっても欠かせないものであり、医療秘書を目指す私にとっても必要なものだと思います。

### 病院で働くために必要なこと

ビジネスコミュニケーション学科 2回生 片山 愛



2日間の実習のため大津市民病院へ行き、医師事務作業補助者の仕事を体験させていただきました。実習では、一人が1つの診療ブロックに案内されました。私は、歯科のあるブロックへ行き、問診票の入力やオーダー入力、紹介状の返書の作成などを教えていただきました。また医師事務作業補助者の仕事には、加入している保険会社に給付金等を請求する際に必要になる診断書の作成があります。この診断書についての練習問題を用意いただき、作成の仕方を教わりました。

2日間の実習を終え感じたことは、患者様に対してはもちろんですが、一緒に働く先生や看護師の方にもとても気を遣うお仕事だということです。自身の仕事が遅れてしまうと周りの方を待たせてしまい、迷惑をかけてしまいます。そのため、正確かつ迅速な作業進行を意識しないとイケませんでした。

今回の病院実習では、実際に病院の仕事を体験することで、医療機関で働くことはどういうものなのかさらに明確なイメージを持つことができました。

### 病院実習で学んだこと

ビジネスコミュニケーション学科 2回生 矢代 美湖



日本医師会認定医療秘書の資格取得のため、夏休みに2日間の病院実習をさせていただきました。私は滋賀病院で医療事務の仕事について学びました。

実習では、医療事務課でカルテ入力、カルテ入庫、カルテ配達を体験しました。特に印象に残ったのが、カルテ入力でした。カルテ入力では受付表での内容をパソコンに打ち込み、間違いがないかを確認する作業でした。この作業は正確さが問われるのでミスをしないよう慎重に行いました。また、授業で習っている医療用語などがたくさん出てきたので、それらをしっかり覚えることに力を入れようと思いました。

短い期間ではありましたが、貴重な体験ができてとても充実していたと思います。実際の現場で働く姿はとてもしっかりと、来年からは同じ業種に従事する私にとって得るものが多い実習でした。

### 給食経営管理学外実習を終えて

生活学科 2回生 藤川 茉耶

私は、滋賀医科大学医学部附属病院で5日間の実習を行いました。初めは緊張と不安で一杯でしたが、管理栄養士や調理師の方がとても優しく、丁寧に指導して下さったので、すぐにその場に打ち解けることができました。

実習内容は、2日間は管理栄養士の仕事見学、3日間は厨房での調理作業でした。院内見学は、NSTカンファレンスや栄養指導・発注作業など管理栄養士の仕事を間近で見学し、改めて患者様の命を預かるとても責任のある仕事だと感じました。とくに、NSTカンファレンスでは各部門の専門医間で話し合っって患者様に合わせた治療法や薬、食事内容など患者のQOL（生活の質）向上への意識がとても感じられました。調理作業は、皿数えから盛り付け、食材の下処理、皿洗いなど色々な事をしました。衛生面では、エアシャワーや粘着ローラーなどを体験でき、大変貴重な経験となりました。また、きざみ食の患者様へ、刻んだ煮魚を魚の形に整えて提供しました。一人一人への思いやりが感じられ、常に患者様への気配り、配慮が大切だと学びました。

今回の実習を通して、患者様に満足してもらえるように、気配りの気持ちを常に持ち続ける事が大切だと強く感じました。この気持ちをこれからも忘れず、日々の勉学に努めていきたいと思います。



### 教育実習を終えて

生活学科 2回生 柿本 晴香

私は6月15日から19日の5日間、小学校で栄養教諭の教育実習を行いました。教育実習で一番感動したことは、担任の先生から児童に向けての言葉がけでした。新しい漢字を覚える授業では、児童が書くことに必死になり、姿勢が悪くなっている児童が数名いました。普通なら「姿勢を正しなさい」と声をかけてしまいがちですが、その先生は「姿勢を正すときれいな字が書けますよ。自分の姿勢はどうですか？見直してみましょう。」と、クラス全体に声をかけていました。そうすると、児童たちは自ら姿勢を正して書き始めました。教師として児童を見ていると、直した方がよいと思うことや、クセを発見することができます。しかし、そのことを「～しなさい」という命令口調ではない言い方に工夫をしていたことに深い感銘を受けました。

児童から「先生、ここが分かりません」と頼られることに嬉しさを感じる反面、自分にはもっと勉強しなければ

ならないことがたくさんあることを今回の教育実習を通して実感しました。教育実習で学んだことを活かし、子どもたちの「食」への意識をさらに高められる栄養教諭になりたいです。



### 施設実習を終えて

幼児教育保育学科 2回生 大久保 佳奈

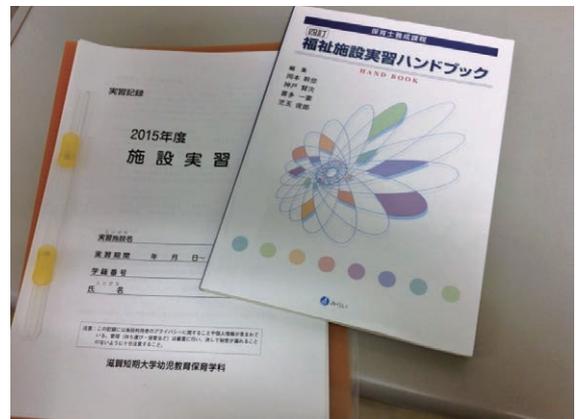
1回生の3月に行かせていただいた障害者支援施設での実習は、今まで自分が思っていた障がいを持った人への「怖い」というイメージが変わり、生活支援の仕事に対する興味が生まれました。実習をしていくなかで教えていただいた、人が人を支援する意味や役割を更に知りたいと思ったため、2回生の実習でも障害者支援施設を希望しました。

1回生の時の実習先とは障がいの程度や施設の規模も全く違うので、もちろん支援の内容も異なりました。ですが利用者の方がより良い暮らしをするための支援を行ってられる姿は共通でした。食事介助、着脱の支援、歯磨きの支援など、利用者と一緒にやることだけが支援なのではないことに気づきました。トイレや浴場の掃除、洗濯物の整理など間接的な作業も重要な支援の一部であることが、実習を通じて理解することが出来ました。

掃除をしている姿をきくと利用者の皆さんは見ておられます。言葉が話せなくても、言葉の意味は理解できる利用者もたくさんおられます。朝の挨拶も信頼関係を築くため

には大事なアクションです。こうした小さなところからお互い信頼関係を築き、お互い成長できることが、人が人を支援する意味だと私は考えます。

私はこの2回の実習を通して福祉の仕事がしたいと考え進路を変更しました。間接的な支援も手を抜かず、利用者の皆さんと共に成長できる人間になれるよう努力していきたいです。



### 保育所実習を終えて

幼児教育保育学科 2回生 加藤 唯

今回の「保育所実習Ⅱ」では、その園ならではの特色ある「自然豊かな環境のもとでの保育」を学ぶ事ができました。その中で、責任実習や部分実習をさせていただきました。実際に子どもたちの前に立ち保育を進めていく事の難しさや、また厳しさに直面しました。責任実習では手作りの玩具「段ボール積み木」を使ったバランス遊びを考えていきました。段ボールならではの肌触りに気づき、楽しむことやバランスをとることの難しさや楽しさをねらいに定めていましたが、子どもの成長発達の部分から、指導案での考えどおりにはいかず焦りましたが、なんとか責任実習を終えることができました。二歳児の成長には月齢によって大きく差があり、一年を通して子どもたちを保育されている先生方は子どもたちの発達過程を把握されていて、保育を進めることができているのだと気づきました。実習期間中、反省と緊張で一杯だった私の心を子どもたちが遊んだ後「ああ、楽しかった」と言ってくれる姿にやりがいや元気が湧いてく

るのを感じました。今回の実習から発達過程などの知識を学ぶことと、経験を積み重ねることの大切さに気づくことができ、もっと深く学び、今後子どもたちに関わる際に生かせるように、成長し続けていきたいと思いました。



# 全国私立短期大学体育大会

8月3日から6日までの間で開催された「第50回全国私立短期大学体育大会」に、本学の各クラブが出場しました。バレーボール部、バドミントン部、ソフトテニス部が、見事「団体優勝」を勝ち取りました。バレーボール部、バドミントン部は2連覇という快挙です。また、ソフトテニス部、バドミントン部、男子ソフトテニス同好会は、個人戦でも優勝というダブル受賞を果たしました。



## 大会結果

- バレーボール部(女子) 優勝 (2連覇)
- バドミントン部(女子)
  - 団体 優勝 (2連覇)
  - 個人 シングルス 優勝 小林 伽奈  
第三位 藤原 遥
- ソフトテニス部(女子)
  - 団体 優勝
  - 個人 ダブルス 優勝 森 香穂・板垣 美悠  
準優勝 前川 彩香・徳本明日香  
第三位 佐田 絢香・圓山のどか  
第三位 遠藤 理菜・塚本 真奈
- 男子ソフトテニス同好会
  - 個人 ダブルス 優勝 須佐美博喜・寺橋 朋広
- バスケットボール部(女子) 一回戦

## バレーボール部(女子)

全国私立短期大学体育大会 2連覇

顧問 山中 博史

8月3日から東京の大田区総合体育館で全国私立短期大学体育大会が開催されました。昨年度は初優勝を収めることができましたが、今年度は2回生が4名、1回生が12名と1回生の多いチームになり、当初より苦戦が予想されました。春のリーグにおいても、チームができて日が浅いこともあり、1勝しか挙げられず、3部降格となりました。しかしながら、部員一人一人が、その悔しさを胸に刻み、全国私立短期大学体育大会2連覇を目標に掲げ、宮垣主将を中心に、昨年に引き続き真面目に練習に取り組んでくれました。決勝トーナメント2回戦から出場(昨年度優勝したので予選免除)してからは、善戦を繰り返し、準々決勝、準決勝を突破し、決勝では、強豪大阪女子短期大学にも3-0のストレートで勝ちを収め、念願の2連覇を果たすことができました。



大会には理事長や保護者の方々が、お忙しい中応援に駆けつけてくださり、優勝の瞬間を見て頂くことができました。深甚より感謝申し上げます。「バレーボールができる感謝の気持ち」を忘れず、日々精進していくことの大切さを改めて感じた次第です。

## バスケットボール部(女子)

主将 生活学科 2回生 奥野 苑美

バスケットボール部にとっては、昨年度スケジュールの関係でこの大会に不参加だったため、全員が初めての全国私立短期大学体育大会ということもあり、とても不安がありました。



大会に向けてはチームが一丸となり女子バスケットボール部の強みである元気に明るくをモットーとし、日々練習に励んできました。しかし、残念ながら結果は一回戦敗退という悔しいものになりました。

振り返ってみると、結果は残念でしたがさまざまな事を学び、個人としてもチームとしても成長できた大会となったと思います。今回負けた対戦相手の常盤短期大学とは関西のリーグ戦でも対戦する事になるので、この悔しさを胸にチャレンジし続けていきたいです。

## ソフトテニス部(女子)

主将 幼児教育保育学科 2回生 佐田 絢香

私たちソフトテニス部は、昨年の全国私立短期大学体育大会において、団体戦では準優勝という悔しい思いをしたので、その悔しさをバネに日々練習に励み、今年はチーム全員が団結し、絶対優勝を掴もうという気持ちで大会に臨みました。

その結果、団体戦優勝、また個人戦でもベスト4独占という結果を残すことができました。この結果を自信にし、これからの試合にもつなげていきたいと思っています。

今後とも応援よろしくお願ひします。



## バドミントン部(女子)

主将 幼児教育保育学科 2回生 上田優利愛

私たちバドミントン部は昨年度団体戦で優勝しており、今年度は連覇を目指して大会に臨みました。危なげなく勝ち進むことができましたが、決勝の相手は武庫川女子短大。去年も決勝で顔を合わせている強豪です。連覇へのプレッシャーや緊張からか、出だしが悪く、最初はなかなか点数を重ねることができませんでした。しかし、熱戦の末、見事勝利することができ、二連覇での優勝を成し遂げることができました。優勝の瞬間みんなで抱き合い、喜びを分かち合いました。みんなで勝ち取った勝利だからこそ、喜びも一入だったのだと思います。思い出に残る、感動の一日となりました。二日目、三日目の個人戦では、それぞれが全力を尽くしプレーした結果、ダブルスでは準優勝、シングルスでは優勝、そして三位という結果を残すことができました。それぞれ結果は違いますが、個人個人自分の課題を見つけることができた大会になったと思います。これからも全員で切磋琢磨し、来年度は三連覇を狙います。



## ソフトテニス同好会(男子)



## 純美禮祭を終えて

学生自治会執行部 会長 畑野 愛香



第46回純美禮祭が、11月7日(出)、8日(日)の二日間にわたって行われました。終わってみるとあっという間だった、というのが今の率直な感想です。

今年は「学生全員参加！」を目標としていました。前日準備では、装飾等を純美禮祭実行委員だけでなく、学生みんなで行うことで、当日参加できなかった人たちも一体となり「皆で作り上げる純美禮祭」になったと思います。

幼児教育保育学科の学生が作成した三角旗は玄関や体育館を華やかにしてくれました。これは学園祭初のアイデアで、輪飾りよりもインパクトがあると好評でした。また、生活学科とビジネスコミュニケーション学科の方々には、前日の午後から装飾の他に、体育館のシート引きや机出しをお願いしました。大変な作業でしたが、手が空いた人から次々他の作業をしていただいたことで、スムーズに進みました。どのような仕事でも一生懸命に取り組んでくださる姿を見て、私はとても感動しました。

純美禮祭実行委員のメンバーは、純美禮祭当日が近づくにつれ、空き時間や放課後などの作業時間が増え、遅くまで仕事をしていました。間に合わないかもしれないと思うこともありましたが、みんなが一丸となることで本番を迎えることができました。出来ないと思っていたことでも、お互いに足りない部分を補い合うことで出来るということ学びました。意見がぶつかり合うことや、辛いこともありましたが、それも今思えば純美禮祭を成功させるために必要だったことであり、いい思い出になりました。

皆さんのおかげで迎えることが出来た純美禮祭本番は、模擬店やステージ上での有志発表、男装女装コンテストなど、大変盛り上がりを見せました。一日目は外部ゲストとして来ていただいた大道芸人さんの楽しいパフォーマンスに子供たちは大喜びでした。またスタンプラリーでも楽しんでもらったことと思います。二日目は天気が悪いのにもかかわらず、前日より多くの方にお越しいただき、吉本芸人さんのお笑いライブやシークレットライブなど、大盛況でした。

純美禮祭を通してたくさんの方々に関わり、多くの人々に助けていただきました。広告掲載に快く応じてくださった企業の皆様、地域の方々、教職員の皆様、学生のみんな、そして中心となって活動した純美禮祭実行委員のメンバーなど、本当に多くの方々の協力のおかげでこの純美禮祭を終えることができました。本当にありがとうございました。

今年のテーマは「Color～それぞれの個性を大切に～」でした。最終的に今年の私たちの色学園祭にすることができたと思います。来年は、来年らしい純美禮祭になるよう、後輩たちには是非頑張ってくださいと思います。純美禮祭がこの先もずっと続いていくよう祈っています。



# 平成27年度 美しい日本語コンクール

テーマ：近江文化を通して、美しい日本語を学ぶ



本学学生を対象とした“美しい日本語コンクール”を、今年も開催しました。

朗読部門6名、読み聞かせ部門19名、そしてエッセイ部門には45名の学生がエントリーし、次のような結果となりました。このコンクールの参加を機として、近い将来一社会人として活躍すべく、さらなる国語能力と表現能力の向上を目指してほしいと願っております。

審査員【朗読部門】浜崎由紀先生（本学非常勤講師） 清水たま子特任教授 柚木たまみ准教授  
【読み聞かせ部門】小野清司附属幼稚園園長 安井恵子特任准教授 手良村昭子准教授  
【エッセイ部門】今関信子先生 大山和哉先生（本学非常勤講師） 柿木重宜教授

## 【朗読部門】入賞者

### 最優秀賞

西田 栄美（生活2）「僕等がいた」



### 学長賞

釜須 杏香（生活2）「小泉八雲集（鮫人の涙）」

### 優秀賞

岸本 七海（ビジ1）「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」

## 【読み聞かせ部門】入賞者

### 最優秀賞

寺橋 朋広（幼2）「もくもくやかん」



### 園長賞

上田 裕子（幼2）「カレーだいおうのまほう」

### 優秀賞

江上 留奈（幼2）「ゆきのともしち」

田邊阿須香（幼1）「じゃがいもポテトくん」

柿本 芹菜（幼1）「ほくたちともしち」

森口 優輝（幼2）「うみきりん」

## 生活学科長賞

木田紗璃奈（生1）「勇気 COURAGE」

## 幼児教育保育学科長賞

野々村 雅（幼1）「すてきな三人ぐみ」

## ビジネスコミュニケーション学科長賞

該当者なし

## 【エッセイ部門】入賞者

### 最優秀賞

藤田 瞳（幼1）「余呉湖」

### 図書館長賞

箕浦 寿璃（幼2）「流通の始まり」

### 優秀賞

高沢 優美（ビジ2）「近江商人を支えた女性たち」

野村 愛美（ビジ1）「滋賀の方言」

川端 修士（幼2）「お寺自慢」

田中 杏奈（ビジ2）「日野菜について」

川本 紗伊（ビジ1）「滋賀県について」

朱 紅（ビジ1）「琵琶湖について」

本庄佐也子（幼1）「滋賀の匠の技」

安部 聡夏（幼1）「琵琶湖はとてつもなく大きかった」

吉川 知佳（幼1）「伊吹山の変化から」

近藤 奈穂（ビジ1）「滋賀県の知名度について」

山元 心（幼1）「あおばな」

## エッセイ部門最優秀賞作品

### 「余呉湖」

幼児教育保育学科 1回生 藤田 瞳

私はこの夏、滋賀県北部にある賤ヶ岳を訪れた。ここは戦国時代に、織田信長が本能寺に倒れたのち、柴田勝家と羽柴秀吉が天下分け目の戦いを繰り広げた場のひとつである。

頂上に到達した私の目に飛び込んできたのは、広大無辺な琵琶湖の周りに聳え立つ荒削りのような山々。それを霧のような薄雲が山々をなだめるように、絹のベールでそっと包み込む。風が立ち、雲が切れたその時、荒々しい山たちが守っていたその「余呉湖」がそっと顔を見せた。「美しい。」その後、続く言葉が出なかった。静寂でありながら、凜として佇み、悠久の息を感じさせる。湖面が穏やかなことから、「鏡湖」という別名を持っているようだ。

余呉湖について調べてみると、「羽衣伝説」が残っていた。

羽衣によって天から降りてきた天女が水浴びをしている間に、天女の美しさに心を奪われた男が天女を天に帰すまいとして、羽衣を隠してしまう、というあらすじで、羽衣伝説は各地により諸説ある。私も実際に訪れ目にしたのは静岡県三保の松原、京都府京丹後市、千葉県佐倉市で、羽衣を奪われたのちの結末は地域により様々であった。なかでもこの余呉湖を舞台としたものが『近江国風土記』に記されており、1200年以上前に書かれたものである。これは日本最古の羽衣伝説であり、この近江伝説がおおとどで各地に広まり、根付いたと言われている。伝説では、天女が羽衣を掛けるのは松や岩などが多く記されていたが、余呉では「衣掛柳」つまり柳の木であった。この柳のもとに刻まれた結末は、羽衣を隠された天女は男の妻となり、子を産む。それがのちの菅原道真である。

私はこの機会に身近な歴史にふれる事ができた。幼児教育保育学科で学ぶ一人の人間として子どもたちに語り、人から人へと語りつぐ文化を大切にしていきたいと思った。

# 私の青春時代

## 私の青春時代

ちょっとした手違いで、高校ではラグビー部で泥と汗にまみれた3年間を過ごした。その鬱積を晴らしたいと思ったわけでもないが、大学ではテニスサークルに入り、夏は信州でテニス合宿、冬はスキー合宿。春は新入生歓迎コンパ、12月にはクリスマスパーティーなどなど、フルシーズンでサークル活動に励んだ。後輩の女の子からの「センパイ」の声（高校時代に夢にまで見た）にこころ躍らせていた。時代はちょうどバブル期で、怖いものなしで遊んでいたかもしれない。

大学入学と同時に一人暮らしを始め、自分だけの空間と時間を手に入れた。眠ることも、食べることも、遊ぶことも、勉強することも自由にできた。好きな本やCD（初めて買ったCDは大学生の時だった）を並べ、友人と語り合い、よく徹夜でレポートを書き上げた。PC-9801VM（初期PCの名機、とても高かった）には、卒論でもとてもお世話になった。大学時代には、行きつけの喫茶店やバイトなどで知り合った大人の友人や大学の先生から多くの刺激を受けた。いい意味でも悪い意味でも、大人であることを教えてもらった。

青春時代とは、子どもから大人に至るまでの“踊り場”のよ

幼児教育保育学科 教授 早川 滋人

うなもの。“モラトリアム”と呼ばれている、と大学の授業で教わった。根拠のない自惚れを持ち、大人ぶったり、格好つけたり、毎日背伸びしていたように思う。時には落ち込んだり、泣いたりしたこともあったけれども、決して明日がないとは思わなかった。踊り場で、弾け、地団太を踏みながら、階段を上げる準備をしていたように思う。今から思えば青臭く稚拙な思い出ばかりであるが、楽しく大切な日々であった。



## 後悔先に立たず

平成27年の通常国会においては、安保法制の是非について連日国会で討議され、「やれ憲法を変えるなら今しかない」とか、「いや憲法違反であるので絶対に認めるわけにはいかない」等々物議を醸していたが、9月19日未明賛成多数で可決された。それはさておき、18歳の私は、昭和47年4月自らの手で国を守るという強い信念をもって自衛隊に入隊をした。当時の自衛隊は今では考えられないくらい古い装備品で訓練をしていた。中でも私の配属された戦車部隊（今津）で使用する戦車は、アメリカ軍からの供用品であるM24式戦車という水冷式ガソリン車であった。ある真夏のとても陽ざしの強い日に、新隊員12名でその戦車を使用して野外訓練をしている最中、教官の「休憩」という声に皆一同に「喉」を潤す為、持っている水筒の水をがぶ飲みをし始めた。しかしその日はなぜか同僚の一人が休憩もせず戦車を点検し始め、やっではいけないラジエター（戦車のエンジンを冷やすための水タンク）の蓋を開けた。ラジエター内の水は数時間運転をしていた影響で熱湯となり、蓋を開けると同時にその蓋が蒸気の影響で上空に吹き飛び、その熱湯が開けた本人の顔に降りかかり、顔の右半分が見る見るうちに焼け爛れてきた。直ちに教官が「誰か水をもって来い」と叫ぶが、皆疲れきっていると同時に、

総務課 久田 隆

あまりの暑さに誰も動こうとはしなかった。まして「水」なんて何処にもありはしない。その時誰かが「水筒の水はありましたもう今はありません」と言うと教官が「誰か水筒の水をよこせ」というが誰も出さない。この水は午後からの訓練を考えると非常に大切なものだ。と誰もが認識していたからだ。しかし焼けた彼の顔からはショック症状からか誰もが水をくれない情けなさからか、青ざめた表情の中に溢れるばかりの涙がこぼれ落ちていた。そこで私は、「少ししかないのですが」と言い水筒を差出すと皆一同に私のもどうぞと差出した。その彼は直ちに救急車で病院に運ばれ命に別状はなかったが同期に絆（信頼関係）はずでに無くなっていった。後に考えるとなぜあの時もっと早く水筒の水を差出さなかったのかと自問自答するばかりである。あの時の彼の顔が忘れられないのは私だけではないはずである。後々、後悔をするくらいなら直ぐに「さあ、この水筒の水を使いなさい」と差出しておけば良かった。と今でも思います。安保法制の議論も後に後悔をする事無いように皆が話の輪に入り内容についてよく討議し、私達の代はもとより次世代の方々の為にも一番良い方法を選ぶように意見を出し、よりよい日本となるようにしていただきたいと思います。

## 保健室だより

学生支援課 保健室 平田 綾子

平成25年の夏から保健室内で小さな観葉植物を育て始めました。連休後のある朝、観葉植物の葉が元気がないように感じました。たっぷりと水を与えて、レースのカーテン越しによく光の当たる窓際に置いてみました。数日後には葉が生き生きとしていました。毎日見ているとなかなか成長に気づきませんが、水とレースのカーテン越しの光を栄養にして2年半後の現在は高さが2倍以上になりました。毎朝、観葉植物にも「おはよう！」と挨拶をして、私の保健室での一日が始まります。

卒業したAさんは、入学直後にいろいろな不安と悩みのため保健室で話しながら涙を流している日が続いていましたが、夏休み後の9月には笑顔で友達と過ごしていました。2回生になると就職活動中に時々保健室で「あ〜どうしたらしいんや〜」と真剣に悩みながらも、自分のペースで就

職活動を進めていました。就職先が決まり、今年の春に「いろいろあったけど、滋賀短に来てよかった」と言って卒業していきました。Aさんにとって、泣いたことも悩んだことも「こころが成長するための栄養」だったのだと私は思っています。

観葉植物にとってレースのカーテン越しに光の当たる窓際が居心地がいいように、学生のみennaにとって保健室が「ホッとできる場であるといいな」と、いつも思っています。「チョット疲れたな〜」と感じる時、気軽に保健室に立ち寄ってみてください。



## 本学と「道の駅竜王かがみの里」との連携企画型実習の成果がでています

本学は、国土交通省近畿地方整備局の仲介で、本年5月に「道の駅竜王かがみの里」と連携企画型実習の協定を結び、学生ならではの視点や専門分野を活かして、道の駅の活性化につながる企画、農産物のブランド化、キャラクターの制作、地元食材を用いた新たな商品の開発などを行ってきました。ビジネスコミュニケーション学科の学生は、レストランのメニューの表示やデザインの改善に取り組みました。以前より魅力的なメニュー表が完成し、レストラン入り口に掲示されています。

6月27日には、生活学科食健康コースの学生による「健康栄養ミニ講座with滋賀短期大学」を開催しました。

さらに、ビジネスコミュニケーション学科の学生が、「竜王牛丼丸」という近江牛のすじ肉を使用した牛丼を考案し、生活学科食健康コースがレシピを作成しました。9月22日には、道の駅で試作販売を行い60食を完売し好評を得ました。11月21日から、道の駅で実際に販売されることになっています。このパッケージのデザインも学生が行いました。さらに、「竜王牛丼丸」に使われる、竜王の特産品である甘くて立派なねぎに「竜王甘太ねぎ」とブランド名をつけました。ねぎのキャラクターも制作し、出荷の際に、本学の名前も入ったラベルとして商品に貼られることになりました。

生活学科製菓マイスターコースは、道の駅パン工房と

### ビジネスコミュニケーション学科・生活学科

の連携、同学科生活クリエイトコースは、商品の見せ方の工夫、商品のPOP、テーブル椅子の配置等での連携を推進中です。

学生と担当教員の積極的な取り組みが少しずつ実を結びつつあります。

文責 ビジネスコミュニケーション学科  
講師 金澤 雄介



## 同窓会だより

同窓生の皆さまにおかれましては、益々お元気で活躍のことと存じます。

平成27年度同窓会の総会及び懇談会を9月6日(日)に学内において開催しました。お忙しい中、ご出席いただきました会員の皆さま、教職員の方々、ありがとうございます。総会では平成26年度決算報告をはじめ、すべての議事が無事承認されましたので、ご報告申し上げます。

総会の後は、製菓担当特任教授の金丸政義先生のご指導により、昨年に引き続きオーストリアのお菓子「タルト・オ・ポワール」(洋梨のタルト)に挑戦しました。また、タルト生地之余りで型抜きクッキーを作りました。助手の鈴木晴香先生、砂原知尋さんにお手伝いいただいたおかげで素敵なタルトとかわいいクッキーが出来上がり、みんな大満足でした。お世話になりありがとうございました。その後、学内の食堂にて懇談会を開催しました。会食や自己紹介・近況報告、ビンゴゲームを行い、懐かしい友達や先

生との話に花を咲かせました。また今年も、バレーボール部卒業生や親子揃っての会員の方、またその子どもたちの参加もあり、賑やかに楽しく過ごすことができました。来年もこの楽しいひと時と一緒に過ごせよう、多くの皆さまに参加いただけるのを役員一同心よりお待ちしております。

同窓会監事 酒井 弘子



## 後援会だより

後援会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、後援会活動に対し、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。改めまして心よりお礼申し上げます。

さて、11月7日(土)、8日(日)の両日に開催されました「第46回純美禮祭」が盛大に開催されましたことを心からお祝い申し上げます。数か月前から純美禮祭実行委員会の皆さんを中心に、プログラムの企画、協賛・協力店の開拓、模擬店の勧誘、事前準備から後片付けまで、細部にわたりリーダーシップを発揮され指示、運営、実行されたことに対しまして敬意を表したいと思います。

さて、私達後援会役員は、2日目の8日(日)に模擬店の一角をお借りして、学園祭にお越しの来学者や学生に「炊き込みご飯とお茶」の提供をさせていただきました。炊き込みご飯は、ご飯を炊く際に具を米と一緒に炊き込んでつくるご飯のことです。通常は炊飯時に昆布、出し汁、しょうゆ等で調味します。収穫の秋に季節の食材を使って作ることが多く、米と一緒に炊き込むことで、材料の味を

滋賀短期大学 後援会 会長 宮垣 幸子

すべてご飯に吸収させることができるという利点があります。一度にご飯とおかずが食べられ、冷めても美味しいため駅弁に使われることが多いそうです。したがって、老若男女幅広い年齢層から支持される食べ物と言ってよいでしょう。後援会一同、学生の皆さんの母代りとして、お出しの香りとビタミン愛を込めた炊き込みご飯を作りたいとたくさんの方達にご賞味いただきました。



# 平成27年度 公開講座

## 淡海文化講座

広報・図書委員 特任講師 木村 和美

地域の方々を対象とした「淡海文化講座」を平成27年度も開催いたしました。今年度は「音楽」をテーマに2つの講座を準備し、多くの方々にご参加いただきました。

10月13日(火)は、「能へのいざない～能の音楽性について～」をテーマに観世流能楽師の吉浪壽晃先生、森田流笛方の左鴻泰弘先生、幸流小鼓方の林大和先生、石井流大鼓方の石井保彦先生に実演を交えながら講演をしていただきました。実際に道具(楽器)を見ながらその音を聞き、リズムの取り方や音階等について解説をしていただきました。小鼓と大鼓を特別にそれぞれ1名だけ演奏させていただけることになり、貴重な経験をされた受講生もいました。迫力ある演技と音で、能の魅力を教えていただ



きました。

10月16日(金)は、「天使の歌声～ハンドベル～その音色と音楽を楽しむ～」をテーマに、本学幼児教育保育学科准教授の柚木たまみ先生にナビゲーターをしていただき、ハンドベルユニットのベル・エチュードの皆様(あべありかさん、大谷邦子さん、千守敦子さん、上田紘桐子さん、宮本満起さん)に演奏を交えながら講演をしていただきました。「天使の音色」と評されるイングリッシュ・ハンドベルの魅力、多様な奏法・技法・曲目によって味わうことができました。受講生はハンドベルに合わせて歌ったり、ハンドベルの演奏体験をさせていただいたり楽しい時間を過ごすことができました。

来年度も多くの方にご満足いただけるような講座を開催したいと思います。



## こども講座

広報・図書委員 准教授 深尾 秀一

本年度も、こどもを対象とした陶芸教室、書道教室、英語教室とフラワーアレンジ教室が夏休み中に開催されました。昨年度までは、こども陶芸教室は、粘土からの成形、釉薬を塗って本焼きという陶芸の工程を楽しんで学ぶという内容でした。しかしそれでは人数が12名程度と限られてしまうため、今年はさらにより多くのこどもたちに陶芸を楽しんでもらいたいということで、21名の小学生が、素焼の作品への絵付けに挑戦しました。長養窯陶工深田先生の指導の下、思考を凝らしたコップやお皿が出来上がりました。立体物に絵を描くことの面白さや、またそれを毎日使うことができるという楽しみも味わえたようです。

こども書道教室では読売書法会理事奥村祥香先生の優しい指導を受けながら、15名の小学生たちが書道に打ち込みました。暑い日でしたが、涼しく落ち着いた雰囲気の中、真剣な



まなざしで作品に取り組んでいました。作品にもその真剣さが表れているようでした。こどもたちが書道の面白さに関心を持ち続け各々の書の世界を広げていってくれればと思います。

アンケート結果では、来年もまた受講したいというご意見をたくさんいただきました。今後も地域のみなさまに楽しく学んで頂けることを願って、さらに充実した講座になるよう取り組んでまいりたいと考えております。

## すみれキャリア講座

本年度は、「銅版画教室」と「楽しく作るパン教室」の2つの講座が開かれました。

本学の名誉教授前川秀治先生による「銅版画教室～おもしろくてたまらない銅版画の魅力を～」では、板を直接削ってインクを詰めるドライポイントの技法から銅板にグラウンドを塗り、その上を鉄筆で削って描いた部分を腐食させるエッチングの技法や松ヤニ粉をふりかけて、腐食の時間差で色の濃淡をつけていくアクアチントの技法まで5回の講座の中で個人の作品に合わせて丁寧に指導していただきました。最終回の作品発表会では、それぞれの個性あふれる作品を前川先生に合評していただきました。受講者の方々は制作する喜びを感じながら、有意義な時間を過ごされていました。

また、本学の特任教授である金丸先生による「楽しく作るパン教室～基本からヨーロッパ伝統パンまで その9～」では、ドイツの伝統的な製法を取り入れながら、

広報・図書委員 准教授 手良村 昭子

基本から応用までのパンづくりを楽しんで頂きました。

両講座ともアンケート結果において、来年もまた受講したいというご意見をたくさんいただきました。今後も地域みなさまに楽しく学んで頂けることを願って、さらに充実した講座になるよう取り組んでまいりたいと考えております。



## 滋賀医科大学との共催講座

8月1日(土)、本学において滋賀医科大学との共催講座を行いました。今回は『糖尿病について』をテーマにお二人の先生をお迎えしました。午前の部では、滋賀医科大学医学部附属病院糖尿病内分泌内科講師の卯木智先生に「今注目されている糖尿病の新たな問題－認知症との関係－」について、滋賀医科大学附属病院栄養治療部副部長の中西直子先生に「糖尿病の食事を考える－元気に長生きするために－」についてお話ししていただき、日本の現状や危機を示しつつ、糖尿病予防に対して身近なことから取り組めるようなお話をたくさんしていただきました。短い時間ではありましたが、参加された方々は熱心に聞いておられ、有意義な時間を過ごされていました。

午後の部の「ベジファーストで糖尿病予防」をテーマとした調理実習では、糖尿病予防の1日分の昼食を作りました。滋賀の伝統的な野菜や特産物を取り入れ、野菜を多く使用した和食を提案しました。和食は塩分が多くなりますが、下処理の時にひと手間加えることや、だしを利用して少量の塩分でも食べやすく工夫をしました。また、野菜を多く食べられるように様々な調理法を取り入れました。盛り付けにもこだわり、見た目にも豪

広報・図書委員 特任助手 木下 友理子

華に仕上がりました。参加者の方からは、「いつも家では出さないような食事が作れてよかった」、「糖尿病予防食でもこんなに豪華に仕上がるとは思っていなかった」などお声掛けしていただき嬉しく感じました。講座開催のための試作や当日の準備など学生と一緒に生活学科一同で取り組むことができ、貴重な体験でした。参加者の方は学生ともたくさんお話ししていただき、今後も地域とのつながりを深めることのできる機会を持ち続けていきたいです。



# 学校法人純美禮学園 法人本部報告

## 平成26年度決算状況

学校法人純美禮学園の平成26年度決算は、公認会計士の監査、学園監事の監査、理事会・評議員会の承認を経て、確定いたしましたので報告いたします。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収入、消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにし、貸借対照表は、本学園の年度末の資産状況を明らかにするものであります。

### 消費収支計算書

1. 消費収入の部 単位：千円

科目	年度	平成26年度決算額
学生生徒等納付金		1,108,175
手数料		39,982
寄付金		11,602
補助金		417,898
資産運用収入		39,362
資産売却差額		8,000
事業収入		6,284
雑収入		85,617
帰属収入合計 (A)		1,716,920
基本金組入額合計 (B)		△ 115,345
消費収入の部合計 (C)		1,601,575

### 2. 消費支出の部

人件費	1,136,023
教育研究経費	397,629
管理経費	82,009
借入金等利息	2,956
資産処分差額	6,298
徴収不能額	243
消費支出の部合計 (D)	1,625,788

### 3. 消費収支差額

収支差額 (C) - (D)	△ 24,213
前年度繰越消費支出超過額	1,992,981
基本金取崩額	885,684
翌年度繰越消費支出超過額	1,131,510

### 貸借対照表

単位：千円

科目	年度	平成26年度末
資産の部	固定資産	[ 4,441,939 ]
	有形固定資産	( 2,951,748 )
	土地	333,352
	建物	2,034,538
	構築物	53,420
	機器備品	244,715
	図書	274,775
	車輛	10,948
	その他の固定資産	( 1,490,191 )
	引当特定資産	1,489,445
	電話加入権他	746
	流動資産	[ 723,927 ]
	現金預金	610,310
	未収入金	112,207
前払金他	1,410	
資産の部合計 (E)	5,165,866	
負債の部	固定負債	[ 394,972 ]
	長期借入金	134,330
	退職給与引当金	260,642
	流動負債	[ 366,822 ]
	短期借入金	35,530
	未払金	36,221
	前受金	273,499
	預り金	21,572
負債の部合計 (F)	761,794	
基本金 (G)	5,535,582	
消費収支差額 (H)	△ 1,131,510	
(F) + (G) + (H)	5,165,866	

## 滋賀短期大学教育研究充実基金 寄付報告

平成27年4月16日から10月16日までの間に滋賀短期大学教育研究充実基金に20件のご寄付を賜りました。ここにご寄付を賜りました方々のご芳名を掲載させていただき、感謝の意を表します。

中村 直子 伊藤 広志 大橋 哲也 田中伸太郎 重永 博 片岡 眞弓 角田 与一  
 山本 健二 徳田 治男 山下 毅彦 今村 幸治 小野真知子 本屋 善市 馬場 邦之  
 国松 俊夫 吉川 浩 寺内 欣也 渋谷 一彦 篠原 正知 島谷 泰夫 (順不同)  
 以上 20名

# 短期大学行事等開催状況（平成27年6月～平成27年11月）

（総務課に届け出のあったものの一部を掲載しています。）

- 6月**
- 4日(木) 教授会、入学試験委員会、すみれがーでん
  - 6日(土) 教育懇談会、後援会総会、ホームカミングデー（幼教・ビジネスコミ）
  - 9日(火) 学園創立100周年事業実行委員会、自己点検・評価委員会
  - 10日(水) 教員対象入学試験説明会（京都会場）
  - 11日(木) 教務委員会、学生支援委員会、広報・図書委員会、学生募集委員会
  - 13日(土) 夏のオープンキャンパス
  - 14日(日) 公務員対策模擬試験
  - 16日(火) 教員対象入学試験説明会（草津会場）、給食経営計画実習食事提供
  - 18日(木) 体育大会（滋賀県立体育館）、企画委員会、自己点検・評価委員会、人事委員会
  - 19日(金) 教員対象入学試験説明会（彦根会場）
  - 20日(土) 幼2回生木曜日授業（6月4日代替）、MOS対策講座
  - 25日(木) 教員対象入学試験説明会（本学）、教学マネジメント部会、科会、おはなし会
  - 27日(土) リーダーズ・トレーニングⅠ
  - 28日(日) 公務員対策模擬試験
- 7月**
- 2日(木) 教授会、教学マネジメント部会、Ⅰ回生教務オリエンテーション、すみれがーでん
  - 4日(土) 幼2回生金曜日授業（6月5日代替）、MOS対策講座
  - 9日(木) 教務委員会、学生支援委員会、広報・図書委員会、学生募集委員会、就職支援講座
  - 10日(金) おはなし会
  - 11日(土) MOS対策講座、保育内容表現発表会
  - 16日(木) 教学マネジメント部会、企画委員会、大学編入ガイダンス、すみれがーでん
  - 17日(金) アウトドアスポーツ演習（スポーツC（キャンプ）希望が丘文化公園）（7月18日(土)まで）
  - 18日(土) 夏のオープンキャンパス
  - 20日(月)（祝日）月曜授業
  - 22日(水) 中間監査
  - 23日(木) 科会、就職支援講座
  - 24日(金) 日本医師会認定医療秘書養成に関わる運営委員会、おはなし会
  - 26日(日) 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会）
  - 27日(月) 前期定期試験（7月31日(金)まで）
  - 29日(水) 地域移動講座in高島
  - 30日(木) 人事委員会、人権委員会
- 8月**
- 1日(土) 滋賀医科大学との共催公開講座、すみれキャリア講座（銅版画）、家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会）
  - 3日(月) 夏季休業（9月23日(水)まで）、全国私立短期大学体育大会（8月6日(木)まで）
  - 4日(火) すみれキャリア講座（銅版画）
  - 5日(水) 入学試験委員会、こども講座（書道、英語、フラワーアレンジ）
  - 6日(木) 教授会、教学マネジメント部会、こども講座（英語）
  - 7日(金) こども講座（陶芸）、地域移動講座in長浜、学園創立100周年事業実行委員会
  - 8日(土) すみれキャリア講座（銅版画）
  - 9日(日) 夏のオープンキャンパス
  - 17日(月) 職員研修
  - 18日(火) 職員研修、学園職員研修、すみれキャリア講座（パン、銅版画）
  - 19日(水) 事務連絡会議、こども講座（書道）、管理職研修、中堅職研修
  - 20日(木) 企画委員会、教学マネジメント部会、職員健康診断、おはなし会
  - 21日(金) すみれキャリア講座（パン、陶芸）
  - 22日(土) 夏のオープンキャンパス、学生募集委員会
  - 23日(日) 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会）
  - 24日(月) 滋賀県高大連携講座、すみれキャリア講座（パン）
  - 25日(火) すみれキャリア講座（銅版画）
  - 26日(水) こども講座（書道）、管理職研修、中堅職研修
  - 27日(木) 科会、教務委員会、すみれキャリア講座（パン）、おはなし会
  - 28日(金) AO入試事前面談（Ⅱ期）、管理職研修、中堅職研修
  - 29日(土) AO入試事前面談（Ⅱ期）
- 9月**
- 1日(火) 入学試験委員会、1号館耐震調査
- 2日(水)** 1号館耐震調査
- 3日(木)** 教授会、人事委員会、実習委員会、すみれがーでん
- 5日(土)** 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会）
- 6日(日)** 同窓会総会、ホームカミングデー（生活）
- 10日(木)** 教務委員会、学生支援委員会、広報・図書委員会、学生募集委員会、おはなし会
- 13日(日)** AO入試事前面談（Ⅲ期）
- 14日(月)** 施設・児童館連絡協議会
- 15日(火)** 入学試験委員会
- 16日(水)** 前期成績交付、Ⅰ・Ⅱ回生教務オリエンテーション、リーダーズ・トレーニングⅡ
- 17日(木)** 前期再試験、企画委員会、教学マネジメント部会、自己点検・評価合同委員会、おはなし会
- 18日(金)** 前期再試験
- 24日(木)** 後期授業開始、Ⅰ回生人権講演会、科会、地域移動講座運営委員会、すみれがーでん
- 25日(金)** 附属高校実践講座
- 29日(火)** 給食経営管理実習食事提供
- 30日(水)** 9月卒業式
- 10月**
- 1日(木) 教授会、学内研究会、定員問題検討作業部会、就職支援講座、おはなし会
  - 2日(金) 学園事務連絡会議
  - 3日(土) 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会）
  - 5日(月) 第三者評価訪問調査
  - 6日(火) 第三者評価訪問調査、給食経営管理実習食事提供
  - 7日(水) 美しい日本語コンクール「読み聞かせ部門」選考会
  - 8日(木) 教務委員会、学生支援委員会、広報・図書委員会、学生募集委員会、国際交流委員会、自己点検・評価合同委員会、すみれがーでん
  - 9日(金) 美しい日本語コンクール「朗読部門」選考会
  - 10日(土) 指定校、SPⅠ期、AO、公募制推薦（前期）等試験
  - 12日(月)（祝日）月曜日授業
  - 13日(火) 淡海文化講座、入学試験委員会、美しい日本語コンクール「読み聞かせ部門」選考会、給食経営管理実習食事提供
  - 14日(水) 地域移動講座in東近江、純美禮祭実行委員会
  - 15日(木) 防災訓練、臨時教授会、企画委員会、教学マネジメント部会、就職支援講座、公務員対策講座、おはなし会
  - 16日(金) 淡海文化講座
  - 17日(土) 留学生等日本文化研修滋賀短大フィールドトリップ（彦根城一帯）、公務員対策講座
  - 20日(火) 給食経営管理実習食事提供
  - 21日(水) 附属高校フレッシュ講座
  - 22日(木) 科会、公務員対策講座、すみれがーでん
  - 24日(土) 図書館連携講座in和邇、公務員対策講座、サービス接遇検定2級対策講座、滋賀短Kids活動
  - 27日(火) 入学試験委員会
  - 28日(水) 学園創立100周年事業実行委員会
  - 29日(木) 人事委員会、定員問題検討作業部会、就職支援講座、公務員対策講座、おはなし会
  - 30日(金) 地域移動講座in甲賀
  - 31日(土) 集中講義（マーケティング論）、公務員対策講座、サービス接遇検定2級対策講座
- 11月**
- 3日(火)（祝日）火曜日授業、給食経営管理実習食事提供
  - 5日(木) 教授会、人権委員会、教学マネジメント部会、ハラスメント研修、公務員対策講座、すみれがーでん
  - 7日(土) 純美禮祭
  - 8日(日) 純美禮祭、秋のオープンキャンパス
  - 10日(火) 給食経営管理実習食事提供
  - 12日(木) 教務委員会、学生支援委員会、広報・図書委員会、学生募集委員会、公務員対策講座
  - 14日(土) 公務員対策講座、サービス接遇検定2級試験
  - 17日(火) 給食経営管理実習食事提供
  - 18日(水) 附属高等学校フレッシュ講座
  - 19日(木) 企画委員会、人権委員会、教学マネジメント部会、公務員対策模擬試験、すみれがーでん
  - 21日(土) 図書館連携講座in和邇、公務員対策講座、MOS対策講座
  - 23日(月)（祝日）月曜日授業
  - 26日(木) 就職支援講座、科会、公務員対策講座、おはなし会
  - 28日(土) MOS対策講座、公務員対策講座、滋賀短Kids活動、消防設備点検

## 「MOS世界学生大会2015」日本選考会一次選考3位入賞

生活学科 2回生 野畑 公美

私がMOSを受験したのは、大学の就職支援講座でMOS検定の案内を見たのがきっかけでした。MOSのパソコンスキルは、就職試験や栄養士になってからも役に立つと思い受験を決めました。受験の1週間前から大学で行なわれたエクセルとパワーポイントのMOS検定対策講座に毎日参加し、朝から夕方までOA教室で練習をしました。MOS検定終了後に、MOS世界学生大会2015が開催されることを知り、応募しました。一次選考の結果、大学・短期大学パワーポイント部門で、3位に入賞することができました。4万7千人の学生の中から選ばれたことはとてもうれしかったです。

この経験から努力によって成長することを実感し、自分の自信にもつながりました。卒業後も、学んだことを生かして頑張りたいです。



## 姉の幸せを願ったドレス

塚本 妃斗美 (平成25年度生活学科卒 (株)ユーハイム勤務)

卒業して2年がたちます。学生時代にKDKファッショングランプリに挑戦した事を思い出し、今年姉の結婚を機に、ウェディングドレス作りに取り組むことを決めました。以前から一度は挑戦、製作してみたいと思っていたので、よい機会をあたえて頂きました。

今年のテーマである「ひとすじの道」は、姉がこれから歩む希望や幸せをイメージして一針一針思いをこめて縫い上げていきました。デザイン画を実際に描き上げる作業は難しく、苦勞するところもありました。仕事との両立も大変でしたが、徐々に仕上がっていく工程や姉の嬉しそうな顔を思い浮かべると、やりがいもありました。先生のご指導のもと、少しずつドレスが仕上がっていき、完成したときの達成感は今まで味わった事のないものとなりました。今回、「KDK」大賞を頂き多くの人と一緒に喜んでくださいました。皆さんに支えられてこのドレスが出来上がったのだと感謝しております。



## 留学生等日本文化研修を終えて

学生支援課 大伴 嘉彦

今年度は留学生3名が彦根城を訪れました。研修に先立ち滋賀県教育委員会事務局文化財保護課副主幹の松下浩氏による事前研修を行い、研修日の10月17日(土)を迎えました。当日は好天に恵まれ汗ばむ陽気の中、彦根ボランティアガイド協会の松本正勝様のガイドにより進行していただきました。留学生は、歩き疲れを見せながらもボランティアガイドの説明にメモを取るなど熱心に見学研修を行っていました。国宝天守は全国に5つ現存し、特別史跡の城跡は全国に10現存しますが、国宝天守と特別史跡城跡として双方ともに名を上げるのは、日本で姫路城と彦根城だけであると聞き、驚きと感動を覚えたよ

うでした。当初予定は、国宝彦根城、玄宮園、彦根城博物館だけの予定でしたが、井伊直弼公が青春時代に勉強に励み過ごした「埋木舎」を最後に、研修を終えました。



## 滋賀短期大学 学報

2015年12月1日 No. 78

〒520-0803 大津市竜が丘24-4 滋賀短期大学 広報・図書委員会 電話(077)524-3605

HP : <http://www.sumire.ac.jp/tandai/>